

5W-3

電子ファイリングシステムにおける  
登録処理向上のための一考察

池田 佳弘

富士通 (株)

## 1. はじめに

近年、オフィスのOA化が進み、ここ1、2年で電子ファイリングシステムの需要もかなり増えてきた。しかし、電子ファイリングシステムでは、登録処理において以下のような問題を抱えている。

## i) 入力作業に時間がかかる。

- タイトル、キーワード等の文書管理情報の  
入力
- イメージデータの入力

ii) 文字/写真混在文書の場合、入力イメージの鮮明度  
度に欠ける。

本稿では、上記の2点に対する解決案について考察したので報告を行う。

## 2. 入力作業時間の短縮

## 2.1 フロッピー入力の利用

フロッピーディスクに、事前に文書管理情報を格納したファイルを作成し、登録時の文書管理情報の入力を、フロッピーディスクから検索して行うようにする。

## 【手順】

- ① 文書管理情報を、電子ファイリングシステムの文書管理情報のフォーマットにあうように、あらかじめフロッピーディスクに入力しておく。(パソコン等からの入力)
- ② イメージを登録し、文書管理情報入力画面で、あるキーワード(文書管理情報の一つ)を入力し、フロッピーディスクから、該当するキーワードを持つ文書管理情報を検索させる。

③ 文書管理情報に、フロッピーディスクから取り出した情報を自動設定させる。

④ 文書管理情報の入力を終了させる。(登録処理の終了)

## 【効果】

- 登録作業の分割(文書管理情報の入力とイメージ入力)ができ、効率的に作業が行える。
- キーボードからの入力が増加するため、登録作業の時間の短縮が図れる。

## 2.2 キーワード一覧の利用

文書管理情報の各項目の値は、検索におけるキーワードとなる。キーワードは、一つの文書に固有なものばかりではなく、複数の文書に共通なものもある。そこで、既に、他文書に設定されているキーワード(文書管理情報)を再度使用するために、キーワード一覧から個々の文書管理情報を設定させるようにする。

## 【手順】

- ① 文書管理情報入力画面で、キーワード一覧を表示させる。
- ② 必要なキーワードを選択して、文書管理情報として設定する。

## 【効果】

- キーボードからの入力が増加するため、登録作業の時間の短縮が図れる。
- キーワードの入力ミスが減少する。

## 2.3 セパレート用紙の利用

登録させる文書が沢山ある場合、一文書ごとの文書管

理情報の入力、人手の介入が多く、登録処理にかなりの時間を取られてしまう。そこで、複数文書を登録させるときに、文書と文書の区切りに、セパレータ用紙を使い、文書を一括して登録させ、最後に文書管理情報をまとめて入力する。

**【手順】**

- ① 文書と文書の間にはセパレータ用紙をはさんでおく。
- ② 『一括登録』機能で全ての文書のイメージのみを、事前にまとめて登録させる。
- ③ 各文書の文書管理情報を入力する。

**【効果】**

- 複数文書の登録が一括してできる。
- イメージの入力と、文書管理情報の入力の作業を分けることができる。

### 3. 写真と文字の混在文書の入力

通常、電子ファイリングシステムでの登録は、写真は階調読み取り（写真モード）で行い、文字・線画は二値読み取り（線画モード）で行う。そのため、1ページ中に写真と文字が混在する場合は、別々にスキャナから読みとった後切り張りする等の方法で登録しなければならず、処理が煩雑で時間がかかってしまう。

最近、ハード的に写真と文字を区別する専用スキャナ（自動識別スキャナ）も使用されはじめている。しかし、ハードウェア（スキャナ装置）を取り替えなければならない、コストが高くつき、それまでに使用していたスキャナ装置がムダになるなどの問題が生じる。そこで上記のような問題をソフト的に解決する方法を説明する。

最初に、写真と文字の混在しているイメージを、スキャナから二値読み取りする。その後、写真部分を指定し、再度、階調読み取りする。この時点で、文字は二値読み取り、写真は階調読み取りされているので、両者を自動的に合成させる。

**【手順】**

- ① 二値読み取り（線画モード）で読み込ませる。
- ② 写真部分の枠を指定する。
- ③ 階調読み取り（写真モード）で読み込ませる。
- ④ 合成指示で焼付（写真モードと線画モードの結合）が行われる。
- ⑤ 原稿記録指示で光ディスクに記録される。

**【効果】**

- ハードウェアを変えずに、写真と文字の混在しているイメージを、それぞれの適した入力方法で鮮明に登録できる。

### 4. おわりに

本稿では、電子ファイリングシステムにおける登録処理向上のために、入力作業の時間の短縮、文字と写真の混在文書の入力方法について、考察してきた。本稿で考察したものは、いろいろ組み合わせで使用できる。例えば、セパレータ用紙を利用し、イメージを登録させてから、フロッピー利用で文書管理情報の入力を行う。これらの方法を実現することで、登録処理はかなり効率よく、電子ファイリングシステムは、一層使いやすくなるであろう。今後は、登録作業の効率を向上させる事とあわせて、他メディアのデータの登録やスペース効率なども考察していきたい。